

クラス番号	233	ゼミタイプ	多職種連携型
		担当教員名	富田川 智志
テーマ	労働衛生の視点で多職種連携とリスクマネジメントを考える		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

福祉・介護・医療サービスにおいては、利用者や患者の健康・安全の確保が基本ですが、現場で働く人々の健康と安全も同様に不可欠です。しかし、実際には福祉・介護・医療現場で働く多くの人が仕事関連の健康障害、特に腰痛や頸肩腕障害等の筋骨格系障害を抱えています。これらの健康問題は、Presenteeism（体調や心身の不調を抱えながら出勤し、本来の業務遂行能力が十分に発揮されない状態）やAbsenteeism（欠勤・早退・休職により業務が行えない状態）を引き起こし、結果として、福祉・介護・医療サービスの質や労働生産性の低下、医療費の増大、人材不足といった深刻な社会的・経済的損失をもたらしています。

筋骨格系障害の予防策として国際的に推奨されているのは、人間工学的介入と教育を組み合わせ、組織として多職種で取り組むリスクマネジメントです。

※ここでのリスクマネジメントとは、働く人の健康障害のリスクを評価し、低減する取り組みを指します。

本ゼミでは、こうした背景を踏まえ、主に福祉・介護現場における多職種連携とリスクマネジメントの在り方を考察することを目的として、労働衛生の視点を取り入れたフィールドスタディ型の授業を実施します。

授業計画：

1. 多職種連携の在り方の議論・発表、および現場体験

福祉・介護・医療現場における多職種連携の在り方について、事例を通してグループディスカッションを行います。グループ毎にディスカッション内容を発表し、全体で共有・討論することでブラッシュアップを図ります。また、名古屋市内の高齢者介護事業所（通所介護事業所）を訪問し、見学および社会福祉士の業務（主に多職種連携に関する内容）を体験します。現場体験にて学んだことについて体験先の職員の方々に発表し、多職種連携の在り方の理解を深めます。

2. 人間工学的介入法の体験学習

名古屋市内の介護実習・普及センターを訪問し、最新の福祉用具や介護テクノロジーに実際に触れ、それらの選定基準や操作方法を学びます。また、同センターに勤務する多職種の方々から、センターでの社会福祉士の役割や多職種連携についてご説明いただきます。これらを通じて、社会福祉士が福祉用具や介護テクノロジーの知識を身につける意義について理解を深めます。

3. 福祉・介護現場における筋骨格系障害の現状と課題の把握

筋骨格系障害の発生状況や要因、その予防に関する国の方針や制度、現場の好事例等を学び、福祉・介護現場におけるリスクマネジメント（主に筋骨格系障害の予防）の基本を理解します。ゲスト講師を招聘し、福祉・介護現場のリスクマネジメントの実際についても学びます。

担当教員からのメッセージ

私は、医療機関（リハビリテーション病院）において介護福祉士として臨床経験を積んだ後、現在は「労働衛生および人間工学の視点に基づいた筋骨格系障害予防」の研究に取り組んでいます。福祉・介護・医療分野は、他の分野に比べて労働衛生の取り組みが遅れていると指摘されており、その水準をいかに向上させるかが大きな課題となっています。

本ゼミでは、主に福祉・介護現場における労働衛生の在り方について一緒に考えていきたいと思います。

働く人の健康や安全、福祉用具や介護テクノロジー、リスクマネジメントについて学びを深めたい人や、これらに興味・関心のある人を歓迎します。

また、チーム（グループ）での探究と社会的マナーを重視するとともに、学術的スキル（調査・分析・プレゼンテーション力）の向上も目指します。